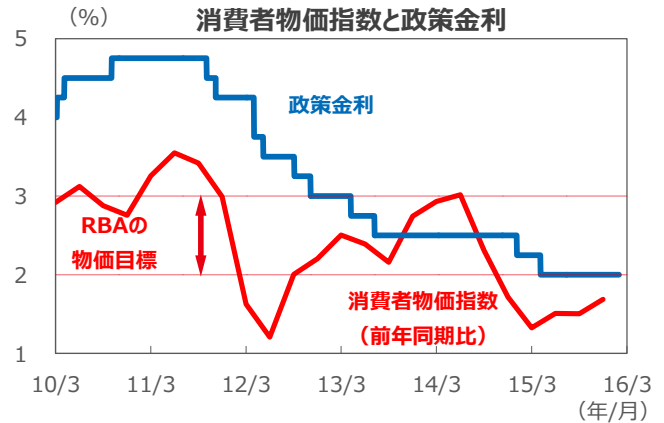


今日のトピック

豪中銀、政策金利を据え置き

ポイント1 過去最低の2%を維持 インフレ見通しも維持

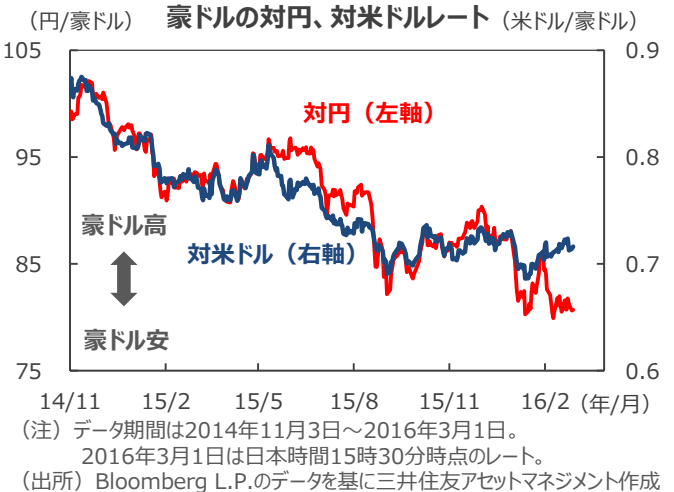
- オーストラリア準備銀行（RBA）は3月1日に開催した政策会合で、政策金利を2.00%に据え置くことを決定しました。ブルームバーグ社の集計によると、エコノミスト27名全員が据え置きを予想していました。
- インフレについては、前回と同様、賃金の伸びや海外の物価が抑えられる状況が続くため、今後1年から2年は低位にとどまる、との見方が示されました。



(注) 消費者物価指数は2010年1-3月期～2015年10-12月期。
政策金利は2010年3月31日～2016年3月1日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 景気は中銀の想定範囲内 利下げの可能性は残す

- 雇用環境は、失業率がRBA想定並みの6.0%近辺で安定するなど、緩やかな改善基調を維持しています。一方、民間設備投資計画は、非鉱業部門の設備投資が2年連続で減少する可能性を示唆しています。このように最近の指標は、豪州経済が強弱まちまちの状況にあることを示していますが、総じてRBAの想定範囲内にあると考えられます。
- ただしRBAは前回に続いて、最近の金融市場の混乱が内外の需要を弱める可能性に言及し、低インフレ下で必要な場合はさらなる緩和の余地もあるとしました。



(注) データ期間は2014年11月3日～2016年3月1日。
2016年3月1日は日本時間15時30分時点のレート。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 政策金利は据え置き、日銀の追加緩和もあり豪ドルは底堅い推移へ

- 豪州の景気については、設備投資の不振が予想されますが、これを利下げ効果による個人消費と住宅投資の拡大で補い、緩やかに回復する見込みです。賃金の伸び悩みや資源価格の下落などから、インフレは当面、低位で推移する見通しです。
- 緩やかな景気回復と低インフレを背景に、RBAは当面政策金利を据え置く見込みです。一方日銀は、マイナス金利を導入し強力な金融緩和を進める方針です。日銀の追加緩和で拡大した日豪金利差は当面継続し、豪ドル円レートを支えそうです。

ここもチェック! 2016年 2月23日 最近の指標から見る豪州経済 (2016年2月)
2016年 2月10日 豪ドルの足元の状況と今後の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。